

市民のみなさま、いつも変わらない暖かいご支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。

9月議会では「道の駅」の再公募に向けた問題点、「おもやいたクシー」の待ち時間対策の2件について一般質問を行いました。これまで、議会の中で「道の駅」建設計画の見直しを求めてきたのは私一人だけですが、荒尾市にとって24億円もの税金を投じる計画は無視できない大きな問題であり、一貫して取り上げてきました。今回の議会で、問題点がほぼ明らかになりました。見通しが無い無謀な計画は中止し、現実的計画に見直すべきです。この記事へのご質問・ご相談などがございましたら、お気軽にご連絡下さい。

日本共産党市議会議員

北園
としみつ

お問い合わせ・ご相談は
090-7461-3989 まで



内装・什器・備品代までも荒尾市が負担

「道の駅」施設使用料徴収計画を見直し 1億6000万円を荒尾市が肩代わり！



「道の駅」施設使用料徴収の見直しによる軽減額 開業後3年間で約8000万円、15年間で1億6000万円減額 (万円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目
当初計画	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666	2,666
変更後	0	0	0	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998	1,998
軽減累計額	-2,666	-5,332	-7,998	-8,666	-9,334	-10,002	-10,670	-11,338	-12,006	-12,674	-13,342	-14,010	-14,678	-15,346	-16,014

※年間売上額を想定6億6600万円とし、「当初計画」は「固定費」2000万円＋売上の1%、「変更後」は開業後3年間は使用料0、その後は売上の3%として試算。

実現が見通せない「道の駅あらお」の当初計画

年間売上高6.6億円、来場者数74万人、総費用24億円

あくまでこの計画にしがみつ、異常な判断

本年4月8日までに事業者の応募がなく、再公募へ向けて事業者への聞き取りを行う中で、事業者から施設使用料の負担が厳しいという指摘を受け、荒尾市が施設使用料の大幅減額とともに、内装・什器・備品代まで負担するという計画を打ち出しました。

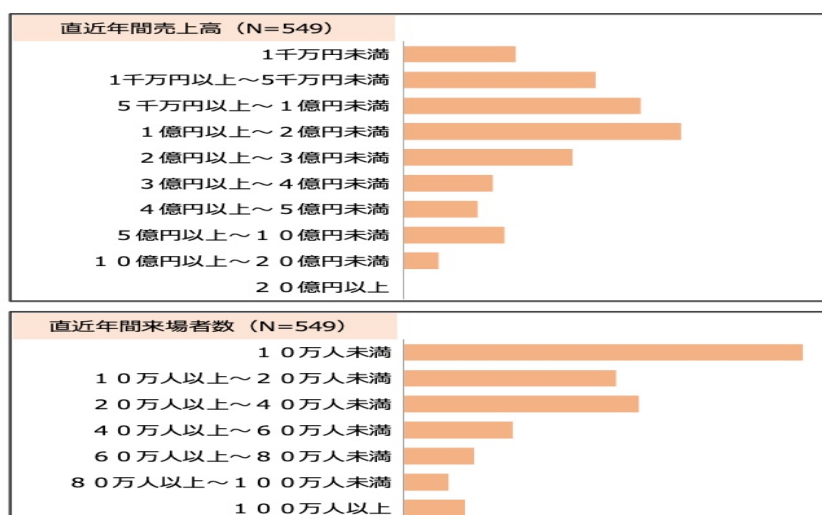
まさに「アジアパークの先取り」としか言えない計画変更です。

年間売上高や来場者数の計画規模が大きすぎるため、使用料負担が見通せないのが実態であり、本来であれば現実的な計画に規模縮小すべきものを、あえて当初計画規模を変更しないまま、荒尾市が肩代わりしてまで計画を強行するという判断は極めて異常です。

無謀な計画は中止し、現実的規模に縮小すべきです

再公募へ向けて、もっぱら企業やコンサルのために多額の税金を注ぎ込む判断を、市民は納得しないと思います。建築資材や物価の高騰で建設費や維持管理などの予算の増加も危惧される中、荒尾市は冷静に判断し、無謀な計画を強行すべきではありません。

私は再公募を中止し、見直し・検証を行い、現実的な規模への縮小を求めました。昨年4月の全国道の駅連絡会の調査では、道の駅の年間売上高は1億円～2億円、来場者数10万人未満が最多です。「道の駅あらお」は地元産の農産物などを中心に販売するとしていますが、「道の駅みやま」への出荷農家600人に対し、現在の荒尾市の出荷意向農家は150人、梨農家はこの30年で半減し80に、農家の高齢化で耕作放棄地は毎年増加しています。こんな状況で計画どおりに運営できるのか疑問を持たざるを得ません。



(2021年4月 全国道の駅連絡会第3回調査報告より)

当初の「使用料」徴収計画

売上高	使用料	
	固定費	変動費
6億6600万円	毎年2000万円	売上の1%以上

再公募へ向けた「使用料の提案例」(変更案)

売上高	使用料	
	開業3年目まで	開業4年目以降
売上6億円未満	売上の(0)%	売上の(2.5)%
売上6億円以上8億円未満	売上の(0)%	売上の(3.0)%
売上8億円以上	売上の(0)%	売上の(3.5)%

荒尾市ホームページ掲載資料より

当初計画では施設使用料は「固定費」として施設の減価償却費の当該年度分に相当する年間2000万円と、これに加え「変動費」として売上高に対し1%以上とされていました。ところが再公募へ向けて「固定費」をなくし、すべて売上に対する変動制にし、当初3年間は免除する計画に変更されました。これでは、減価償却としての回収そのものができなくなり、その分を荒尾市が負担していくことになってしまいます。

私の質問にまったく答えず

9月議会では以下の3つの質問にはまったく答えず、使用料免除により歳入が大幅に減少し、結果的に荒尾市の負担が増加するにもかかわらず、予算再議を行わない異様な議会となりました。議会にも、市民にも、まともに説明しないまま、計画を強行するという姿勢に、傍聴された方々から批判の声が寄せられました。

なぜ? 「道の駅」に関する質問すべてに答えず

質問	答弁
① 15年間の施設使用料軽減総額は	答えず
② 「道の駅」開業後、軌道にのるまでの期間は	答えず
③ 資材高騰・物価高による建設費や運営費等の増加見込額は	答えず

使用料免除1億6000万円あればこんなことができます！

貴重な税金は、市民の暮らしと福祉の増進に使うべきです

“就学援助、に部活費を追加できます！

3000万円もあれば全児童生徒に支給できます

荒尾市で就学援助の支給を受けている児童生徒数は608人です。クラブ活動を始めるためのユニフォーム代などの部活動費は、就学援助には一切含まれず、各家庭で負担しなければなりません。実際には全員が部活に入ることはありませんが、仮に全員に5万円支給したとしても、3000万円あれば実現できます。

“潮湯、に循環バスを運行できます！

マイクロバスは700万円あれば購入できます

物価高・ガス代の値上がり等で、自宅でお風呂に入る回数を減らさざるを得ないように深刻化しています。玉東町や玉名市のように、潮湯に循環バスを配備して運行すれば、高齢者の方々がどれほど喜ばれるか、潮湯に入って健康づくりにも大いに貢献できます。運転手の人件費を含めて、年間の1000万円程度で実現可能です。

“おもやいたクシー、を増車し待ち時間解消を増車運行は優先課題です

現在の“おもやいたクシーは、車を降りて、帰りの予約をするときに、かなりの待ち時間が発生する場合があります。運転免許を返納される高齢者の増加が見込まれる中、増車運行は優先課題です。

“産交バス、バス停にベンチと屋根を1000万円もあればすぐに実現できます

市内を走る“産交バス、のバス停のほとんどは、ベンチも屋根もありません。今年のような猛暑では、立ったままバスを待てば、体調を崩しかねません。1000万円もあれば大半のバス停に設置が可能です。市民に目を向け、すぐに取りかかるべきです。

“高校3年生まで医療費無料化、

県下45市町村の中で、36自治体を実施まだ実施していない9自治体の中に荒尾市が含まれます。

“高齢者への補聴器購入助成、全国や県下で広がっています。

荒尾市も、1日も早く実施すべきです！

“郷土史、のためにもっと予算を

二造の歴史に1円も予算がつかない“異常”の解消を戦時下の荒尾市で操業した旧陸軍の火薬工場「東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所」、いわゆる荒尾二造に関わる関連施設が荒尾市のまちづくりの基盤となってきたにもかかわらず、荒尾市として市民に知らせることが、まったく行われていません。市民や子どもたちはもちろん、県外や日本中に知らせていけば、歴史に関心のある観光客が増えると思います。このような郷土史のための予算に回すべきです。

コンサル委託に頼らず、自ら計画を

「道の駅」の基本計画を含めて、再公募へ向けた計画の大半は、コンサル任せであり、右表にあるように「保健・福祉・子育て支援施設」を含めた委託料はすでに1億円を超えました。

私は、このような高額な委託費を払わずとも、職員で計画を作るよう努力すべきだと、他の自治体の事例を紹介してきました。委託に頼らず、職員自らの力で政策立案に取り組んでいる自治体があるのです。そうすることによって職員の政策能力を養成し、やりがいを持てる職場づくりにもなってくると提案しました。

ウェルネス拠点整備に係る業務委託料

	委託内容	委託料(円)
令和2年度	南新地ウェルネス拠点マネジメント委託料	8,250,000
	「保健・福祉・子育て支援施設」基本構想等策定支援業務委託料	9,317,000
	「道の駅」基本計画策定・官民連携調査委託料	15,997,300
令和3年度	南新地ウェルネス拠点マネジメント委託料	9,988,000
	「道の駅あらお(仮称)」基本計画策定業務委託料	6,288,700
	「保健・福祉・子育て支援施設」基本計画策定業務委託料	8,030,000
R3～R5	ウェルネス拠点施設整備等民間事業者選定アドバイザー業務委託料	43,780,000
	合計	101,651,000

全19議案中、14議案に賛成し5議案に反対しました。うち、以下の4議案について反対討論を行いました。

一般会計決算の認定について	就学援助にクラブ活動費も対象に加えること、ひとり親家庭の医療費負担1割を無料にすること、子ども医療費助成を高校3年制まで拡充することなど、荒尾市独自の施策の拡充が必要であるが、まだ取り組まれていません。ウェルネス拠点関連コンサル委託料が1億円を超え異常な高額となった反面、荒尾二造関連支出は除草費9.3万円のみ、郷土史のため予算をもっと確保すべきです。同和団体への補助金についても見直すべきであり、反対します。	水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について	水道事業の民営化・包括委託料が適正なのか判断できず、安易に決算に賛成できない。全国で委託先企業の経営資料を公表しないのは荒尾市だけであり、公表し誰でも分析できるようにすべきです。地方公営企業の改善に関する答申では、水道事業に関し「維持管理に要する費用は料金に織り込むことは適当でなく地方公共団体の一般会計が負担すべき」としていますが、荒尾市は負担しておらず、負担すべきです。安易な水道料金引き上げの検討はやめるべきです。
後期高齢者医療特別会計決算の認定について	令和2年度予算において、一人当たり保険料額が前年の55,270円から62,803円へ13.6%も引き上げとなり、令和3年度決算も同様の保険料であり反対します。本年10月1日からは本人の窓口負担が所得により2割となり、その後は政令だけで対象が拡大されます。後期高齢者は保険料も窓口負担も大幅に引き上げられる事態に追い込まれ、更なる家計圧迫・受診控えが心配されるため反対します。	荒尾市民病院使用料及び手数料条例の一部を改正する条例について	今回の改正は、紹介状なしで市民病院を受診した場合の負担を、初診の場合は現在の5500円から7700円に、再診の場合には2750円から3300円に引き上げるという内容である。賃金は上がらず、年金は引き下げられ、貧困が広がる中で、お金がなければ具合が悪くなくても、受診を我慢せざるを得なくなるような負担の引き上げは、深刻な事態を及ぼしかねず、賛成できません。